

【随筆・雑文】

1. 木村敏 (1952) 「ベーラ・バルトーク」『音研』、21～32 頁。
2. 木村敏 (不明) 「半音階法の作曲学的並に史的考察」『音研』、39～53 頁。
3. 木村敏 (1960) 「音楽と永遠」『音研』第 6 卷、71～75 頁 (『形なきものの形』、著作集 8)。
4. 木村敏 (1962) 「ドイツ便り——ミュンヘンにて」『音研』、101～104 頁。
5. 木村敏 (1965) 「「創造的音楽批評」ということ」『京都音楽家クラブ会報』第 117 号、1 頁。
6. 木村敏 (1967) 「A イコール A」『有斐』第 9 卷、1～6 頁 (『形なきものの形』、著作集 8)。
7. 木村敏 (1968) 「現代の不安」『季刊せいしん』第 1 卷第 2 号、7～12 頁。
8. 木村敏 (1972/7/6) 「領域 X の特別な顕現」『読売新聞』朝刊。
9. 木村敏 (1972/8/1) 「「人間」の新しい理解のために」『MEDICAL CURRENT』第 69 号。
10. 木村敏 (1972/12) 「初老期うつ病、その予防と治療」『毎日ライフ』、86～91 頁。
11. 木村敏 (1976) 「ハイデッガー先生を偲ぶ」『現代思想』第 4 卷第 7 号、45～47 頁。
12. 木村敏 (1976/2/6) 「人間存在の意味 (上) 「なぜ」の問いから出発」『読売新聞』夕刊。
13. 木村敏 (1976/2/7) 「人間存在の意味 (下) 構造の二重化と不安」『読売新聞』夕刊。
14. 木村敏 (1977/1/11) 「月と雪とピアノ」『医学会新聞』医学書院 (『形なきものの形』、著作集 8)。
15. 木村敏 (1977/1/23) 「「なぜ」の職権乱用」『中日新聞』(『形なきものの形』、著作集 8)。
16. 木村敏 (1978) 「青年期の精神病理」『展望』1978 年 2 月号、10～11 頁。
17. 木村敏 (1978/7/31) 「愛することと愛されること」『中日新聞』夕刊 (『形なきものの形』、著作集 8)。
18. 木村敏 (1978/8/28) 「あいさつについて」『中日新聞』夕刊 (『形なきものの形』、著作集 8)。
19. 木村敏 (1978/10/9) 「顔について」『中日新聞』夕刊 (『形なきものの形』、著作集 8)。
20. 木村敏 (1978/11/14) 「デジタル化」『中日新聞』夕刊 (『形なきものの形』、著作集 8)。
21. 木村敏 (1978/12/8) 「主体意識と問柄意識」『中日新聞』夕刊 (『形なきものの形』、著作集 8)。
22. 木村敏 (1978) 「年齢と精神病」『日本医事新報』第 53 卷第 1 号 (第 2804 号)、125 頁。
23. 木村敏 (1978) 「ベシュライベンのことなど」『精神医学』第 20 卷第 2 号、118～119 頁。
24. 木村敏 (1979) 「精神病理懇話会・富山 II 印象記」『精神医学』第 21 卷第 9 号、1027～1029 頁。
25. 木村敏 (1980/3/9) 「外国語と精神医学」『中日新聞』朝刊。

26. 木村敏 (1980/8/21) 「私の人間分類」『中日新聞』夕刊。
27. 木村敏 (1980) 「翻訳書の読みづらさ」『出版ダイジェスト』第 977 号 (『形なきものの形』、著作集 8)。
28. 木村敏 (1981) 「「特集 妄想と妄想病」への「特集にあたって」」『臨床精神病理』第 2 巻第 1 号、5~6 頁。
29. 木村敏 (1982) 「声と存在」『国立劇場公演「音声——聲の伝説」解説』(『形なきものの形』、著作集 8)。
30. 木村敏 (1983) 「J. Glatzel, 山谷教一訳「メランコリー者と他者——メランコリー者との理解共同体について」への「追記」」『臨床精神病理』第 4 巻第 1 号、85 頁。
31. 木村敏 (1984/4/13) 「心身症」『The Student Times』。
32. 木村敏 (1984/4/27) 「掃除と躁うつ病」『The Student Times』。
33. 木村敏 (1984/5/11) 「炎」『The Student Times』。
34. 木村敏 (1984/5/25) 「記憶」『The Student Times』。
35. 木村敏 (1984/6/8) 「翻訳」『The Student Times』。
36. 木村敏 (1984/6/22) 「相互理解」『The Student Times』。
37. 木村敏 (1984) 「私流儀の薬物療法——人間学的精神病理学の立場から」『こころの臨床ア・ラ・カルト』第 7 号、23~25 頁。
38. 木村敏 (1985) 「ハイデッガーのこと」『創文』1985 年 6 月号、12~13 頁 (『形なきものの形』、著作集 8)。
39. 木村敏 (1985) 「高安先生をしのんで」『塔』第 32 巻第 7 号 (第 36 号)、49~52 頁。
40. 木村敏 (1985) 「ヘルダーリンの精神病」『いずみ』第 32 巻第 7 号 (第 357 号)、24 頁。
41. 木村敏 (1985 年) 「男性原理と女性原理」『新岩波講座・哲学』第 10 巻、月報第 5 号、1~3 頁 (『形なきものの形』、著作集 8)。
42. 木村敏 (1986) 「ブランケンブルク氏とクラウス氏のこと」『海燕』第 12 号、9~11 頁 (『形なきものの形』、著作集 8)。
43. 木村敏 (1986/10/23) 「「自己」をめぐって——日独シンポジウムから」『中日新聞』夕刊。
44. 木村敏 (1986) 「故大橋博司先生を偲んで」『精神医学』第 28 巻第 12 号、1419~1420 頁。
45. 木村敏 (1986) 「現代社会の病理——内面的自然の破壊」『京大広報』第 322 号、189 頁。
46. 木村敏 (1987/1/9~6/26) 「コラム「潮音風声」」『読売新聞』夕刊 (『形なきものの形』、著作集 8)。
47. 木村敏 (1987) 「「特集 ドイツ精神病理学の現況から」への「特集にあたって」」臨床精神病理、第 8 巻第 1 号、5~6 頁。
48. 木村敏 (1987) 「関係の病い 1~3」『臨床看護』13 巻 8 号、1278~1282 頁; 13 巻 9 号、1389~1393 頁; 13 巻 10 号、154~158 頁。

49. 木村敏 (1987) 「無題」『塔』第 35 卷第 6 号、16 頁 (『形なきものの形』、著作集 8)。
50. 木村敏 (1988) 「ブロイラーと共感覚」、切替辰哉訳『ブロイラー精神医学書Ⅱ』付録「出版だより」、中央洋書出版部、1~3 頁 (『形なきものの形』、著作集 8)。
51. 木村敏 (1988/8/8~1989/6/1) 「「現代のことば」」『京都新聞』夕刊 (『形なきものの形』、著作集 8)。
52. 木村敏 (1988) 「大橋先生の思い出」大橋博司先生追悼文集編纂委員会『自然の光——大橋博司を語る』、40~41 頁。
53. 木村敏 (1989) 「病識についてのアフォーリズム」『臨床精神医学』第 18 卷第 1 号、55~56 頁 (『形なきものの形』、著作集 8)。
54. 木村敏 (1989) 「「親子関係の精神病理」への「指定討論」」『臨床精神病理』第 10 卷第 1 号、21~22 頁。
55. 木村敏 (1989/6/10) 「形なきものの形」『日経メディカル』 (『形なきものの形』、著作集 8)。
56. 木村敏 (1989) 「わが国の精神病理学の明日によせて」『精神医学』第 31 卷第 7 号、681~685 頁。
57. 木村敏 (1989) 「異常の意味」『季刊職リハネットワーク』89 年 4 号。
58. 木村敏 (1989) 「山上明美さんのこと」『山上明美ピアノ・リサイタルプログラム』。
59. 木村敏 (1990) 「ドイツ語圏精神病理学の近況」『日本精神病理学会ニュースレター』第 2 号。
60. 木村敏 (1990) 「こころと時間」『数学セミナー』第 29 卷第 3 号、52~54 頁 (『形なきものの形』、著作集 8)。
61. 木村敏 (1990) 「『薔薇の名前』雑感」『Imago』第 1 卷第 7 号、8~9 頁 (『形なきものの形』、著作集 8)。
62. 木村敏 (1990) 「奥田吉郎君と私」『大きな手』第 28 号。
63. 木村敏 (1990) 「ことば雑感」『群像』1990 年 10 月号、354~355 頁 (『形なきものの形』、著作集 8)。
64. 木村敏 (1990) 「うつ病の臨床研究」『Pharma Medica』第 8 卷第 9 号、14~15 頁。
65. 木村敏 (1991) 「ドイツとフランスの日本人留学生」『季刊精神療法』第 17 卷第 4 号、308 頁。
66. 木村敏 (1991) 「死が響いているバルトーク」『レコード芸術』2 月号。
67. 木村敏 (1992/3/13) 「日本人論の国際理解」『読売新聞』夕刊。
68. 木村敏 (1992) 「こころの治療ということ」『臨床心理士会報』第 3 卷第 2 号、1~2 頁。
69. 木村敏 (1992) 「知と感性——兼本論文へのコメント」『Imago』第 3 卷第 8 号、118~122 頁。
70. 木村敏 (1993) 「精神病理学と生物学的精神医学」『学士会会報』第 798 号、161~166 頁。

71. 木村敏 (1993) 「精神病理学と私」『日本精神病理学会ニュースレター』第 8 号、1~2 頁。
72. 木村敏 (1993) 「ヴァイツゼッカーと現象学的精神病理学」『思想』第 827 号 (1993 年 5 月号)、1~3 頁。
73. 木村敏 (1993) 「人間的な見立ての重要性」島藺安雄・保崎秀夫編『モダンクリニカルポイント・精神科』金原出版、12~13 頁。
74. 木村敏 (1993) 「最近の経験から」『本』1993 年 9 月号、6~9 頁。
75. 木村敏 (1994) 「学会誌のスタートによせて」『臨床精神病理』第 15 巻第 1 号、3 頁。
76. 木村敏 (1994/8/22~1995/1/23) 「こころのかたち——精神医学 20 講」『産経新聞』夕刊。
77. 木村敏 (1994) 「時間の精神病理」『Angel』第 3 巻、5~9 頁。
78. 木村敏 (1994) 「退官のご挨拶」『芝蘭会報』9 月 1 日号 (第 113 号)、1 頁。
79. 木村敏 (1994) 「近況報告」『京都大学医学部広報』12 月 14 日号 (第 61 号)、12~13 頁。
80. 木村敏 (1995) 「精神病理学」『Aera Mook 6——哲学がわかる』、162~164 頁。
81. 木村敏 (1995) 「癒しの人間学」『仏教』第 31 巻、38~44 頁。
82. 木村敏 (1995) 「秋とメランコリー」『ラポール』第 27 巻、2~3 頁。
83. 木村敏 (1995) 「テレンバッハ教授の死去を悼む」『臨床精神病理』第 16 巻第 3 号、321~323 頁。
84. 木村敏 (1996) 「「多文化間精神医学」に期待する」『文化とこころ／多文化間精神医学研究』創刊準備号、6 頁。
85. 木村敏 (1996) 「私の履歴書」『有斐』第 38 巻、10~12 頁。
86. 木村敏 (1996) 「ハイデガーと私」『現代思想の冒険者たち 08 ハイデガー』月報、講談社。
87. 木村敏 (1997) 「境界としての自己」『現代詩手帖』第 40 巻第 5 号、26~30 頁。
88. Kimura, B. (1997/4): Philosophie japonaise et psychiatrie. EuroPsy. Journal Européen de Psychiatrie, 6; 15.
89. 木村敏 (1997) 「バッハの笑い」『バッハ全集』第 13 巻小学館、86~92 頁。
90. 木村敏 (1998/3/6) 「自他未分の境域を求めて——「絶対の他」についての現象学的見定め」『週刊読書人』、1 頁。
91. 木村敏 (1998) 「シミュレーションとバックシミュレーション」『精神療法』第 24 巻第 2 号、181 頁。
92. 木村敏 (1999) 「変な翻訳日本語」『This is 読売』、35~36 頁。
93. 木村敏 (1999) 「私の近況」『精神科治療学』第 14 巻第 1 号、65~66 頁。
94. 木村敏 (2000) 「日本精神病理学会——回顧と展望」『精神神経学雑誌』第 102 巻第 8 号、712~716 頁。

95. 木村敏 (2000) 「滋賀里病院の思い出」『滋賀里病院四十五周年記念誌』19～20 頁。
96. 木村敏 (2000) 「京大音研同窓会会長挨拶」『京大音研五〇周年記念講演会／演奏会パンフレット』。
97. 木村敏 (2001) 「こころと情報」『めんたるへるす京都 20』巻頭言。
98. 木村敏 (2001) 「私の経歴」『高山市民時報』、5180 号。
99. 木村敏 (2001) 「村瀬論文「こころの老化としての「分裂病」」に寄せて」中村雄二郎・木村敏監修『講座生命 2001』第 5 巻、河合文化教育研究所、259～263 頁。
100. 木村敏 (2001) 「現象学と精神医学の宿命的な出会い」『現代思想』第 29 巻第 17 号 (12 月号臨時増刊 総特集「現象学——知と生命」)、40～43 頁。
101. 木村敏 (2002) 「モーツァルト・リレー・エッセイ「ピアノ協奏曲第 23 番イ長調 K. 488」『Jupiter』6・7 月号、いずみホール。
102. 木村敏 (2002) 「表情の相互性」『精神科治療学』第 17 巻第 10 号、1266～1268 頁。
103. 木村敏 (2002) 「Blankenburg の死を悼む」『臨床精神病理』第 23 巻第 3 号、275～282 頁。
104. 木村敏 (2003) 「ドイツでのこと」『精神療法』第 29 巻第 1 号、42 頁。
105. 木村敏 (2003/3/3～3/7) 「1 年男」「2 現在を生きる」「3 いっしょに老いる」「4 記憶」「5 待つ」『朝日新聞』夕刊「時のかたち」。
106. 木村敏 (2003) 「ウォーキング」『健康チャンネル』第 237 号、日本家族計画協会健康教育推進本部。
107. 木村敏 (2003) 「翻訳文化の悲喜劇」『ホメオ京都』第 7 巻、1～8 頁。
108. 木村敏 (2003) 「音楽の時間」『京都音楽家クラブ会報』第 546 号 (第 48 巻第 9 号)、2 頁。
109. 木村敏 (2003) 「現代人の自己の病理」『あんじゃり』第 6 巻第 12 号、2～5 頁。
110. 木村敏 (2003) 「京大精神科百周年を迎えて」京都大学精神医学教室『精神医学京都学派の百年』ナカニシヤ出版、1 頁。
111. 木村敏 (2004) 「統合失調症の精神病理——経験から理論へ」『クエチアピン発売三周年記念』診療新社、87～99 頁。
112. 木村敏 (2004) 「わたしの論文作法」『ユリイカ』2004 年 3 月号、137 頁。
113. 木村敏 (2004) 「私の受験時代」『KAWAI 文教研レポート』、5 頁。
114. 木村敏 (2005) 「『自覚の精神病理』のこと」『I feel 読書風景別冊』紀伊國屋書店。
115. 木村敏 (2006) 「ハイデッガーとヴァイツゼッカー」『創文』第 491 号 (2006 年 10 月号)、1～4 頁。
116. 木村敏 (2006) 「思想の言葉 音楽と時間」『思想』第 992 号 (2006 年 12 月号)、1～3 頁。
117. 木村敏 (2007) 「日本語で哲学するということ」『坂部恵集』第 3 巻月報、岩波書

店。

118. 木村敏 (2007) 「フロイトとヴァイツゼッカー」『フロイト全集』第7巻月報、岩波書店。
119. 木村敏 (2008) 「精神科医として西田哲学から学んだこと——個人と経験」西田幾多郎記念哲学館『点から線へ』第52号、2～38頁。
120. 木村敏 (2009) 「メンターに聞く 症状論的エポケー」山内俊雄総編集『精神科専門医のためのプラクティカル精神医学』中山書店、434～436頁。
121. 木村敏 (2010) 「土居健郎先生と私」土居健郎先生追悼文集編集委員会『土居健郎先生追悼文集——心だけは永遠』、32～33頁。
122. 木村敏 (2010) 「祝辞」医療法人資生会八事病院『五十年の歩み——明日につなぐ精神医療とともに』、10～11頁。
123. 木村敏 (2010) 「巻頭言」『音研』創立六〇周年記念号、1頁。
124. 木村敏 (2010) 「歴史ということ」『音研』創立六〇周年記念号、2～4頁。
125. 木村敏 (2011) 「今西錦司『生物の世界』」河合文化教育研究所『わたしが選んだこの一冊』。
126. 木村敏 (2011) 「坂部恵さんと「中動相」のこと」『坂部恵——精神史の水脈を汲む』水声社、28～31頁。
127. 木村敏 (2011) 「ひとつの世界」『塔』第58巻第8号 (河野裕子追悼号)、57頁。
128. 木村敏 (2012) 「大学入試センター試験に出題された文章について」河合文化教育研究所ホームページ「書斎のこぼれ話」。
129. 木村敏 (2012) 「西田幾多郎『善の研究』」河合文化教育研究所『わたしが選んだこの一冊』。
130. 木村敏 (2012) 「「ウォーキングのことなど」『河合文化教育研究所・葉』2012年夏号、2頁。
131. 木村敏 (2013/7/1～7/5) 「精神科医ビンスヴァンガー氏からの招待状」「音楽漬けの大学時代」「ドイツで取得した運転免許証」「ハイデガーの直筆」「“通勤”している喫茶店」『日本経済新聞』夕刊「こころの玉手箱」。
132. 木村敏 (2013) 「和辻哲郎『風土——人間学的考察』」河合文化教育研究所『わたしが選んだこの一冊』。
133. 木村敏 (2014/2/23) 「医者と患者」『日本経済新聞』。
134. 木村敏 (2014) 「デカルト『省察』」河合文化教育研究所『わたしが選んだこの一冊』。
135. 木村敏 (2014) 「名市大精神科の思い出——現象学的精神病理学の全盛期」『名市大精神医学教室同門会会報』第3号、20～30頁。
136. 木村敏 (2015) 「京大精神科の思い出」深尾憲二郎・村井俊哉・野間俊一編『精神医学のおくゆき』創元社、143～150頁。

137. 木村敏 (2015) 「一精神科医のドイツとの交流」『文明と哲学——日独文化研究所年報』第7巻、こぶし書房、128～138頁。
138. 木村敏 (2015) 「永井均『西田幾多郎〈絶対無〉とは何か』」河合文化教育研究所『わたしが選んだこの一冊』。
139. 木村敏 (2016) 「人生の転機にあたって」『文明と哲学——日独文化研究所年報』第八巻、こぶし書房、178～181頁。
140. 木村敏 (2017) 「店じまいへ向けて」『文明と哲学——日独文化研究所年報』第9巻、こぶし書房、26～27頁。
141. 木村敏 (2020) 「ヴィクトーア・フォン・ヴァイツゼッカー『ゲシュタルトクライス 知覚と運動の人間学』」河合文化教育研究所『わたしが選んだこの一冊』。
142. 木村敏 (不明) 「例会報告」『京都音楽家クラブ会報』、3頁。
143. 木村敏 (不明) 「アウラ・ゼルキン・ケンプのベートーヴェンを聴いて」『京都音楽家クラブ会報』、4頁。
144. 木村敏 (不明) 「有賀のゆりチェンバロ・リサイタルを聴いて」『京都音楽家クラブ会報』、3頁。
145. 木村敏 (不明) 「われわれ自身の問題としての『夜と霧』」、19～22頁。
146. 木村敏 (不明) 「生への関心を促すために」『ディルタイ全集』内容見本への「推薦のことば」、法政大学出版局。